



## 今こそ、地域とともにがんばろう！

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、私たちの日常生活は大きな制限を受けています。そのような状況の中でも私たちの大学は、地域のみなさまに支えられながら教育活動を継続することができ、心より感謝しております。そして、今こそ地域とともに、地域のためにがんばれる大学でありたいと願っております。

### ● たくさんの支援をありがとうございます！ ●



6月3日、JA鳥取中央さまより、コロナ禍の中がんばる学生を支援したいと、一人暮らしの学生約200人に、鳥取県産米「星空舞」、旬の「大原トマト」「プリンスメロン」などをいただきました。JA鳥取中央・栗原組合長の励ましの言葉に学生たちはとても喜び、ありがたく受け取っていました。また、6月11日には、鳥取県中部の特産品であるスイカの試食会も行っていただき、学生・教職員に旬の「大栄スイカ」「がぶりこ」「倉吉スイカ」「とまり美人」の4種類がふるまわれました。学生たちにとっては、おいしいものをいただく喜びに加え、地域の恵みのすばらしさを体感するとともによい機会となりました。

7月9日、株式会社宝製菓さまより、全ての教職員、学生に「お菓子を食べて元気をだしてください」というメッセージとともにお菓子を一箱ずついただきました。学生たちからは「元気がでた」等の声も聞かれ、おいしいお菓子とともに笑顔があふれる一日となりました。



倉吉市より、新型コロナウイルス感染拡大防止にかかる大学の取組みへの支援として、学業の継続支援を目的とする補助金の交付を受けました。中でも、学業継続緊急支援特別交付事業では、飲食店等でのアルバイトがなくなったことによる収入減で影響を受けている学生に対し、給付金を支給していただきました。アルバイト収入で食費や授業料の一部を賄っている学生も多く、地元倉吉市からの支援はとても心強く、がんばる力となっています。ありがとうございました。

### まちの保健室（マスク作り）

鳥取看護大学が実施している「まちの保健室」は、新型コロナウイルス感染拡大により、3月から3か月間開催を見合わせました。そこで地域貢献委員会では、「まちの保健室」に代わる「今できる地域貢献活動」として、教職員・学生に呼びかけてマスクを作成することにしました。教職員から材料の寄付もあり、手分けをしてキットを作成する一方、委員が中心となって必要なものを購入し、学内数か所とシブナス寮にミシンを設置しました。学生ボランティアと教職員が空き時間やキットを持ち帰って自宅での作業を行い、まめんなかえ師範の協力もあって、400枚以上のマスクが完成しました。5月上旬には、「まちの保健室」の利用者に手紙を添えて送付し、鳥取短期大学附属こども園の園児たちにもプレゼントしました。住民の方からお礼のお電話やお手紙が届き、学生・教職員も活力をいただきました。マスク作りに協力した学生たちには、「素敵なボランティア賞」を贈りました。



緊急  
講演会

## 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防について ～ウイルスを知って賢く対処しよう～」を開催しました



3月25日(水)シグナスホールにて、「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)予防について～ウイルスを知って賢く対処しよう～」と題した緊急講演会を開催しました。鳥取看護大学 荒川 満枝教授が感染症の専門家としての立場から、ウイルスの特徴や、手洗いの重要性、マスクの正しい装着の仕方など、新型コロナウイルス感染症の具体的な予防対策を説明しました。感染予防のため全員がマスクを着用し、座席の間隔をあけるなどの対策のなか、鳥取県内外から約60人が参加し、熱心に講演を聞きました。

この講演会の様子は、日本海ケーブルネットワーク(NCN)で繰り返し放送され、鳥取県内の小中学校および高校にDVDが配布されるなど、地域の方々にも広く視聴していただいています。

### 荒川先生に聞く！コロナ対策 ～普段の生活で気をつける6つのポイント～

- 1 2メートル以内で人と接する時は、マスクを着けましょう。
- 2 使用しているマスクの表面(フィルター部分)にはウイルスや細菌がいっぱい！外すときには、耳のゴム部分を持ちましょう。
- 3 常に換気をしましょう。少なくとも2時間に1回は必ず行いましょう。
- 4 手洗い時には、指先や爪・手の甲・指の間・親指のまわり・手首など細部にも時間をかけて洗いましょう。洗う前に手に水をかけ、泡はしっかり流すことも忘れずに。
- 5 特に下痢のときは、トイレのふたを閉じてから水を流しましょう。
- 6 免疫力を高める生活を送りましょう。  
～栄養バランスのよい食事・十分な睡眠・笑顔で楽しい毎日を～



**3密(密閉、密集、密接)を避け、身体的距離を保ちみんなで元気に過ごしましょう!**

### 学生考案! 「お弁当メニュー」

### —食物栄養専攻 給食管理実習—

生活学科食物栄養専攻2年生の「給食管理実習」では、例年100食の大量調理・提供の実習を行っています。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、当該学生対象として30食のみの給食を実施していましたが、7月17日(金)、約半年ぶりに100食の大量調理を実施しました。この日の献立は、「しらすと大葉の混ぜごはん」「チーズ入りポテトコロッケ」「春雨サラダ」「トマトのマリネ」「オクラと梅肉の和え物」「わらび餅」という6品の、暑さに打ち克つ、栄養バランスのとれた夏らしいメニューになるよう工夫しました。また、当日は3密を避けるため、調理従事者と喫食者の安全・衛生面を考慮したお弁当箱での提供としました。学生にとっては、状況に合わせて臨機応変に対応する学びの機会となりました。



# 地域とともに！

## 「鳥取県教育委員会美術館整備局」の入口をデザインしました



令和6年度に開館予定の、鳥取県立美術館建設地に隣接する倉吉未来中心に「美術館整備局」が開設され、入口のデザインを鳥取短期大学生生活学科住居・デザイン専攻の学生が行いました。美術や芸術がもっと身近に感じられ、また私たちの暮らしを豊かにしてくれる存在として県民のみなさんにも認知されるような美術館となるよう、地元の大学として大いに協力していきたいと考えています。

## 「コレクション宅配便」を開催しました

5月28日（木）、本学シグナスホール1階アリーナにて、鳥取県立博物館主催の「学校&地域でアート『コレクション宅配便』」を開催しました。この事業は、県立博物館が所蔵する美術コレクションをより多くの方に身近な場所で鑑賞してもらうために実施されています。



国際文化交流学科1年生の授業「交流とホスピタリティ」では「対話型鑑賞」を行い、グループ毎に版画や彫刻作品などの感想を自由に話し合いました。学生たちは1つの作品に対してさまざまな見方があることを実感し、他グループの発表に対して驚きや共感の声などがあふれる授業となりました。

また6月16日（火）には、幼児教育保育学科1年生の授業「子どもの造形指導法Ⅰ」で佐藤学芸員を特別講師としてお招きし、「子どもの造形における『鑑賞』とは何か」をテーマに授業を行いました。博物館でのワークショップにみられる子どもの姿を紹介しながら、指導にあたる教員にとって必要な資質能力とは何かをお話いただきました。講義のほかに、折り紙を折ったり描画をしたりしながらの演習も行い、「造形表現」について多角的にとらえる良い機会となりました。

## 「とりたん生と語る会」を開催しました



国際文化交流学科2年生の授業「地域交流」では、地域の方々と交流を図りながらリサーチを行い、地域の課題について考察したことを発表します。今年度は、鳥取県からの委託による「産学官連携実践的教育モデル事業\*」として、倉吉白壁土蔵群での長期滞在型観光の提言をまとめ、7月28日（火）の「とりたん生と語る会」で「長期滞在者向けの手作り・体験型イベントの開催」「円形劇場で給食の提供」「ワインラベルの制作」などさまざまな提案を発表しました。

\*高等教育機関と産業界等が連携し、県内産業と結びついた教育プログラムを検討し、実践的な専門職教育をモデル事業として実施する。

## 倉吉市市民対話集会（ヒアリングリレー）

7月11日（土）、第12次倉吉市総合計画および第2期倉吉市総合戦略策定に係る市民対話集会（ヒアリングリレー）が本学で開催され、学生20名が意見交換を行いました。「10年後、倉吉市が住み続けたい街・戻りたい街になっているとしたら、どのようなことが行われていますか」というテーマについてグループワークを行い、「子育てを支援するコミュニティがある」「道路、JR等交通機関の充実」「ショッピングモール、アーケード街等商業施設の充実」「倉吉市のブランド化、ふるさと教育の重要性」「専門的な学びや環境の整備などで有能なIT人材が集まる場所になる」など、多様な意見が出されました。

参加した学生からは「倉吉のことを知る良い機会となった」と感想が寄せられ、地域の未来を考える貴重な時間となりました。



## 鳥取看護大学マスコットキャラクターが決定しました！

名前は、「看（かん）」と「鳥（とり）」を入れ、キャラクターの持っている「☆」をつけ、『かんとりい☆』と名付けられました！「地方（カントリー）」の輝く大学になりたい、という願いが込められています。

- 耳…シンボルマークである二葉の耳で患者さんの話をしっかり聞き、心からの看護を志しています。
- 顔…まあい顔は、鳥取の名産「梨」の形です。
- ポーズ…星座シグナス（白鳥座）を見上げています。
- からだ…白衣をイメージしたホワイトです。

名前は  
**かんとりい☆**  
です



大学の顔としてさまざまな場面で活躍する「かんとりい☆」をどうぞよろしくお願いたします！

## 令和2年度 鳥取看護大学・鳥取短期大学地域研究・活動推進事業助成金

当センターでは、鳥取看護大学・鳥取短期大学の建学の精神である「地域に貢献する人材の育成」に基づき、両大学の地域研究・活動等をさらに促進する観点から、地域研究・活動推進事業助成金制度を設けています。今年度採択された研究は、次の7件です。

### 今年度採択された研究テーマ

- 日常生活における身体活動向上に向けた取り組みの検討ーウェルネスウォーク参加による効果検証からー
- 郷土芸術の再評価と文化資源の共有化
- 司書のキャリアを考えるワークショップの実践
- コロナ恐慌下における外国人の就労と生活ー出雲市を例にー
- 鳥取県における耕作放棄地対策の実態分析
- 地域の食材を利用したリーフレットの作成と食教育への可能性の検証
- 保育者養成・教員養成における専門性に関する研究



鳥取看護大学 看護学部看護学科  
教授 早川 大 輔

### 新センター長挨拶

今年度より鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター長を拝命しました、早川大輔と申します。今まさに世界は、新型コロナウイルスの影響による未曾有の事態を迎えており、生活習慣や働き方、さらにそれらを含めた社会のあり方まで大きな変革を余儀なくされています。本センターも、新たに出てくる様々な課題に迅速に対応しつつ、「大学と地域・世界との新しい関わり方」を模索していく必要に迫られています。バイタリティあふれるスタッフが知恵を絞り、本学と地域社会・世界とをつなぐ窓口として活動していく所存です。たくさんのご意見・ご要望をお寄せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

### グローバルセンターをご利用ください

当センターでは、個人・団体による大学見学会、講演会講師の依頼、学生へのボランティア依頼、教員の専門分野に関するご相談などに随時対応しています。  
詳しくはグローバルセンターまでお問い合わせください。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854  
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@ns.cygnus.ac.jp  
<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36